



外国文献紹介

大型の下垂体腺腫の海綿静脈洞への浸潤の評価に関して MRI の T1 強調像よりも CISS 法を用いた画像のほうが優れた結果が得られた

Lang M et al : Superiority of constructive interference in steady-state MRI sequencing over T1-weighted MRI sequencing for evaluating cavernous sinus invasion by pituitary macroadenomas. J Neurosurg 130 : 352-359, 2019

筆者らは、大型の下垂体腺腫で手術を行った患者 98 例の CISS 法で撮影した画像と VIBE 法の画像について、後ろ向き調査を行って海綿静脈洞への浸潤を評価し、術中所見と比較検討した。浸潤の程度の評価にはノズプ分類を用いた。その結果、98 例の下垂体腺腫中 27 例（27.6%）に海綿静脈洞への浸潤がみられた。また、CISS 法の画像による評価と VIBE 法による評価が一致しないものが全体の 23% にみられた。ROC 曲線下の面積は、VIBE 法は 0.94 であり、CISS 法では 0.97 であった。下垂体腺腫の海綿静脈洞への浸潤に関しては、CISS 法の画像を用いたほうが、VIBE 法の画像を用いるよりも、術中所見と良好な相関が得られた。そして、CISS 法を用いた画像は、大型の下垂体腺腫の術前評価に有用と思われると述べている。

瀬戸一彦